



【学校教育目標】

夢や志をもち 心豊かに自己新記録を目指す生徒

防災講座



5月13日(木)に、全校生徒を対象の防災講座を開催しました。3年前の7月6日に西日本を襲った「平成30年7月豪雨災害」では、三次市でも道路や農地等に甚大な被害が生じました。また、吉舎町でも避難指示が出されたりしました。

これから中国地方も、梅雨入りの時期となり、大雨になる可能性があり、今後の気象情報に注意して災害への備えをしていかなければなりません。

自分の命は、自分で守るとともに、災害で困っている人たちに何かできることはないかを生徒たちに考えてもらいたいと思い、自衛隊広島地方協力本部 三次地域事務所から國政所長様をはじめ、5名の講師の方をお迎えして防災講座を行いました。

國政所長様には、実際に災害救助に向かった時の体験を交えながら、災害時の状況や対応の備え等についてお話いただきました。その後、棒と毛布等を用いた簡易担架の作り方等を教わり、負傷者を実際に搬送する体験をしました。さらに、緊急車両(トラック)の試乗や災害時での自衛隊の活動について教えてもらいました。そして、最後に、砕氷艦「しらせ」が持ち帰った南極の氷をプレゼントしていただきました。

生徒たちは、自分たちの生活との関連を考えながら真剣に講話を聴いたり、興味深く体験活動をしたりしていました。



簡易担架による搬送体験



防災講話



南極の氷
体験



車両見学



生徒感想

(一部抜粋・修正)

- よくテレビで自衛隊の方の災害救助活動などをニュースで見ます。僕も西日本豪雨の時に、避難しました。その後、家の後ろの川向こうの山が崩れました。災害はいつどこで起こるかわからないから、備えておきたいです。(1年男子)
- 自助・共助・公助の中で、自助が一番大切であることがわかりました。自分自身は自分で守る。それができたら他の人も守ることが学んでわかりました。(1年男子)
- 今回学んで、災害の怖さ、防災の大切さ、自衛隊の人たちの大変さがわかりました。平成30年に起きた災害で、被害に遭われたお母さんが亡くなってしまったという話には、驚いたし、その場にいた自衛隊の人の口惜しさが、私にも話を聞くだけで感じられました。そして、タンカーで人を持ち上げるのは大変でしたが、このような体験は必要だと思うので続けてほしいです。自衛隊の方には、南極の氷のプレゼント等いろいろとありがとうございました。(2年女子)
- 西日本豪雨のお話の中で、実際に現場へ救助に行ったけど助けられなかった方を思って悔しくて泣いていたという話が凄く心に残っています。災害に対する備えについて聴いている時に、実際に助けられなかった人がいてもうそんな人を出したくないから、今日お話に来てくださったのかと思いました。いつ災害が起こるか分からないので、今日の講座を参考にしっかり備えておこうと思います。(3年女子)
- 災害で亡くなった方の話を聴いたりハザードマップを見たりして、「吉舎には災害はこない。」という考えはだめなんだなと思いました。私の家族は、災害時のために備えようと言っても「大丈夫」と言っているので、今日学んだことを伝えようと思いました。(3年女子)

吉舎で「きさの子ども」を育てる

5月14日(金)に小中合同研修会を行いました。コロナ禍で、ネット回線を使用しての会議でしたが、吉舎保育所、吉舎小学校、八幡小学校、吉舎中学校、日彰館高等学校の先生方が共に「自ら学び

、考え、自立した行動ができる『きさ』の子どもの育成」について協議しました。当日は、広島大学准教授 吉田成章先生に、「吉舎できさの子どもを育てる保小中高一貫教育の取組について」話題提供をしていただきました。また、広島大学の宮里智恵先生と滝沢潤先生もご参加くださり、コメントをいただきました。ありがとうございました。

吉舎という地理的・歴史的・自然的・資源的な場で、吉舎以外から通学する子どもや吉舎から巣立つ子どももいるが、吉田先生が話されたように「吉舎で育つ子ども」＝「きさの子ども」と捉え、保小中高一貫教育の取組を推進していくことの意味を今一度みんなで考えていく、よい機会となりました。校種を超えて率直に思いを交流できたことはとても有意義でありました。保護者と地域の皆様には、今後ご理解とご協力をお願いします。